

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立芙蓉中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

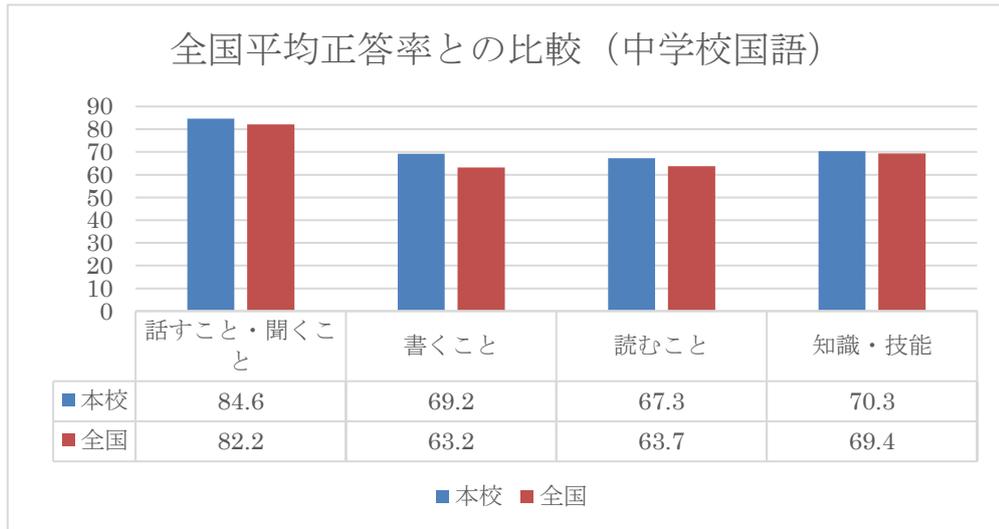
生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

全体では、全国平均を3ポイント上回る結果でした。すべての項目で、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均と同じ程度となっています

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が 0.9 ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段からの漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。また、「話すこと・聞くこと」は 2.4 ポイント上回りました。話し合う活動に力を入れ、学習活動に取り入れてきた成果であると考えられます。課題は、「書くこと」の根拠を明確にして意見文を書くことです。しかし、問題形式の「記述式」の正答率 72.2%は、全国平均正答率 57.4%を 14.8 ポイント上回っています。「思考力・判断力・表現力」を重視した問題がより増えつつありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

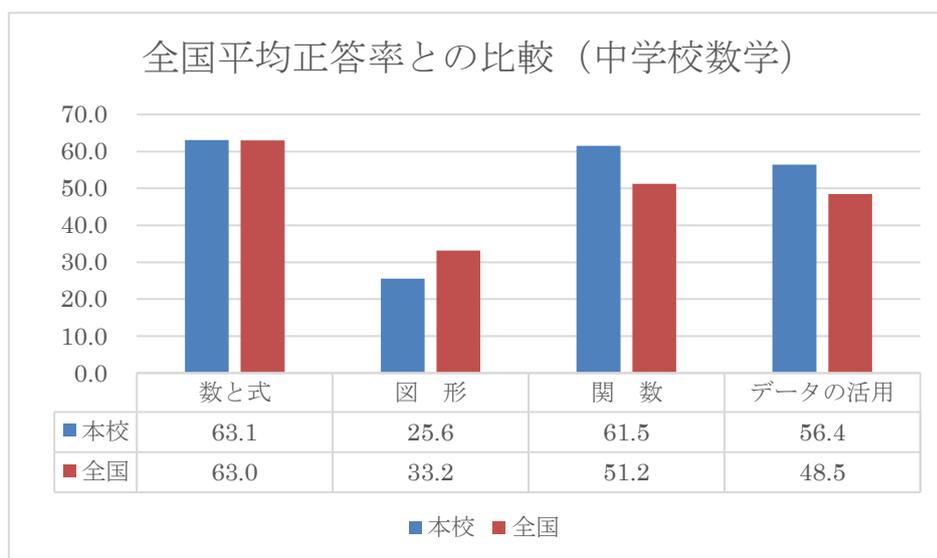
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習にも力を入れ、辞書を活用させ、語彙力をつけます。
- 書写では、年賀状やお礼状など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます
- 習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましょ。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 数学



(1) 結果

平均正答率は全国平均を 3.0 ポイント上回っています。しかし、図形の領域で全国平均を 7.6 ポイント下回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっていました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、図形の領域以外は全国平均を上回り、無解答率も低かったです。特に、関数やデータの活用の内容で、非常に高い正答率でした。一方で、図形の問題では、全国平均正答率を 7.6 ポイント下回り、課題が見られました。証明の内容では、実際に作図などをさせ、具体的な操作から考えることができるよう、指導の充実を図ります。

今後、日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

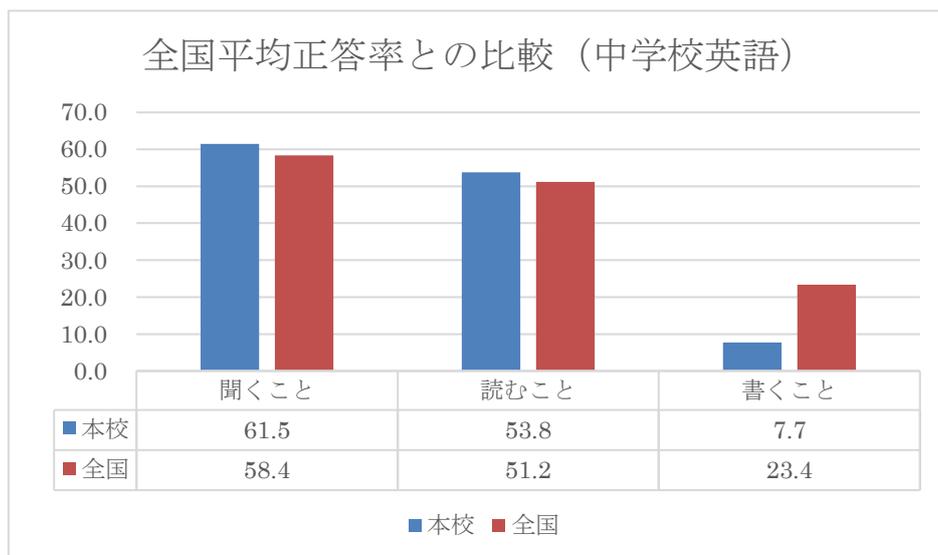
【学校では】

- 具体的な操作や作図などを行い、数学的な活動を通して、イメージをもたせるように努めます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 知識・技能を習得する場面では、基礎・基本の定着を図るため、演習問題に取り組みます。また、タブレット PC や復習プリントなどを活用し、個々に応じて復習に取り組みます。

【ご家庭では】

- 授業等で分からなかったところは復習するように話をしています。疑問点をそのままにせず、周囲に質問し、理解できるまで、粘り強く取り組むことが大切になります。お子様の学習の様子を見守り、適宜アドバイスや励ましての言葉をかけください。
- 小テストや単元テスト、実力テスト、定期テストなど様々なテストを実施しています。基礎・基本の定着度をみるもの、活用力をみるものなど、目的に応じて様々です。ご家庭でも、授業の内容やテストでの得点状況などについて、話をされてみてください。

3 英語



(1) 結果

全体の対全国平均を2.6ポイント下回っています。

「聞くこと」、「読むこと」に比べ、「書くこと」の対全国比が低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「聞くこと」の領域の情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を3.1ポイント上回っていました。また、「読むこと」の領域の情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を2.6ポイント上回っていました。一方で、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる問題や社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題は、課題が見られました。

自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取るためには、話されること全てを聞き取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取ることが重要です。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 学習者用デジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるようにします。
- 読んだことについて話す活動や、聞いたり読んだりしたことについて書く活動など、複数の領域を統合した言語活動の充実を図ります。

【ご家庭では】

- 授業以外でも英語を使う機会を増やすことが英語力の向上につながります。英語への関心が高まるような励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 英語学習のテレビ・ラジオ放送や英語学習用教材サイト等をご活用ください。（文部科学省のホームページでもたくさん紹介されています。）

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	92.3%	78.6%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	38.5%	34.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	53.8%	54.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	46.2%	37.2%
将来の夢や目標を持っていますか。	15.4%	39.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	53.8%	71.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	76.9%	80.3%

朝食については全国平均より高い水準です。「早寝・早起き」の生活リズムをもっと大切に生活してほしいものです。中学生の遅刻は見られません。これは家庭の協力なしにはできないことであり、保護者の皆様に感謝します。挑戦心や規範意識の項目については、肯定的な回答をした生徒がほとんどでした。その反面自己肯定感が低いようです。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	0.0%	15.3%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	5.2%	10.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	7.7%	23.4%
「1時間以上、2時間より少ない」	76.9%	32.1%
「30分以上、1時間より少ない」	7.7%	18.0%
「30分より少ない」	0.0%	9.9%
「全くしない」	0.0%	6.0%

家庭学習については全国平均よりも取り組み時間が少ないようです。30分未満の生徒は見られませんでした。学校では、家庭学習の進め方や Fuyo 夢プロジェクト週間を活用して家庭学習の意味を生徒に伝えて、家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 家庭学習が定着するように毎日自主学習ノート（自学）を1ページ以上行うように指導しています。
- 放課後学習会を利用し、苦手教科の克服や卒業後の進路への意識付け等、学習への課題意識をもたせるようにしています。

【ご家庭では】

- お子さんと学校での出来事や将来について話す時間を増やしてください。
- ゲーム、テレビ、パソコンやインターネットなどの使い方について約束事を決めるなど、学習に集中できる環境を整えてください。
- 「芙蓉校9年間の家庭学習のすすめ」や「家庭学習の進め方」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学習の説明を参考に、自分で計画的に学習できるように励ましてください。